

福 祉 共 育 ～だれもが関わり合えるように～

市原小学校4年生が、視覚障がい者についての福祉学習会を行いました。
 ゲスト教師として、『河津サワ子』さんをお招きし、点字について学びました。実際に点字版を使って点字を打つ体験も行い、みんな一生懸命点字を覚えようと頑張っていました。
 河津さんより、「目が不自由だから特別な人とは決して思わないでください。目が不自由でも何でもできます。何にでも挑戦し、自分でしたいと思っています。しかし、目が不自由なことで沢山の不便や障害があるということを知っていただき、そのような時に支援ができる勇気ある優しい人に成長してください。」と児童たちへメッセージを送りました。
 今回の学習を通して、更に理解を深めるため視覚障がい・聴覚障がいの疑似体験学習を行うこととなりました。



学
習
会
の
様
子



児
童
か
ら
お
れ
の
手
紙

前回の学習に続き、自分の周りには色々な立場の人がいることを知り、自他との違いを正しく捉えることを疑似体験や話を通して不便な状態などを知り、また、困っている人を目の前にして自分は何かができるか、どうしたいかを考え、相手を認め、やさしさについて考えることを目的に学習会を行いました。

視覚障がいの疑似体験としてアイマスクを着用し、折り紙を折ってみたり、白杖を使った歩行体験など6種類の体験を行い、聴覚障がいの疑似体験ではイヤーマフを装着しお互いに話をしてもらいました。

児童たちの感想では、『友達に手伝ってもらうことで綺麗に折ることができた。』『階段の上がり下りが怖かった。』『イヤーマフをした状態では、話がしにくかった。』など工夫したことや、困ったことなど様々な感想が聞かれました。今回の学習を通して、視覚・聴覚障がいについての理解を更に深めることができたようでした。



白杖を使っ
ての歩行
体験



イヤーマフを付けての聴覚体験



社協便り

平成30年10月号

編集・発行：南小国町社会福祉協議会

お問い合わせ先：0967-42-1501

小国中学校 福祉体験学習



通 所 介 護 で 創 作 活 動

お疲れ様です

小国中学校の9年生が、【福祉についての興味関心を持ち・高齢者や障がい者に対する思いやりの心を育てる】ことを目的に、小国郷内の福祉施設で福祉体験学習を実施しました。りんどう荘では、通所介護と訪問介護で、入浴介助やレクリエーション、家事援助など様々な体験を行いました。

『福祉施設に対してのイメージが変わった。』『きつくて大変だがとてもやりがいがある。』『相手の気持ちを理解することが大事。』など様々な感想があり、2日間の短い期間でしたが、福祉の仕事の楽しさや認知症などについて理解を深めることのできる体験となりました。

民生委員児童委員 視察研修

障がい者の就労や生活、社会参加の理解を深めるために、大分県別府市にある【太陽の家】の視察研修を行いました。創設者の中村裕氏は、『保護より機会を』『世に身心障がい者はあっても仕事に障害はありえない』と訴え、日本を代表する大企業と連携して共同出資会社をつくり、多くの障がい者の雇用を実現しました。また、1964年東京オリンピックや大分国際車いすマラソン大会など、障がい者スポーツ大会の開催を提唱し、国内外において障がい者スポーツの発展に尽力しました。

【太陽の家】の周辺は、銀行、スポーツ施設、病院、カフェなどすべて車イスの人でも支障なく利用できる施設が整っており、その中で障がいがある方でも普通に生活できるエリアになっていました。今回の視察研修を通して、参加された皆さんはとても理解を深められたようでした。



創 始 者 像 の 前 で 記 念 撮 影



視 察 の 様 子

地域の福祉 みんなで参加

町民のみなさまへ

秋の訪れとともに、今年も赤い羽根共同募金運動の時期がやってまいりました。

昨年は、皆さま方の深いご理解とご協力により、**1, 205, 229円**もの募金が寄せられましたことに厚くお礼申し上げます。寄せられました募金は、社会福祉協議会をはじめ、福祉施設、ボランティア団体等に配分され、高齢者や障がい者、子どもたちを取り巻く様々な福祉活動の推進に大きな役割を果たしています。また、国内で発生する風水害や地震による災害救援活動にも活用させていただいております。

一昨年4月に発生した熊本地震の際にも、被災者支援をおこなう災害ボランティアセンター運営支援などに共同募金が大変大きな役割を果たしており、熊本県共同募金会の災害準備積立金、全国の共同募金会の災害準備金から約3億円が熊本地震の災害支援金として活用され被災地の復興支援に貢献しています。これもひとえに皆様のご協力のおかげと深く感謝いたします。

本年も、10月1日から、全国一斉に赤い羽根共同募金運動が展開されます。だれもが住み慣れた地域で安心して暮らすことのできる地域社会づくりの実現のため、この運動に多くの方々のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

熊本県共同募金会 南小国町分会長 高橋 周二



戸別募金のお願い

赤い羽根は小さなことをしています。



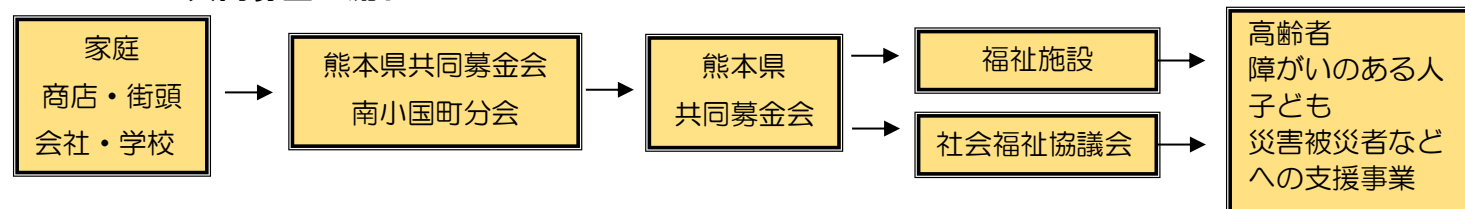
小さなことは見えにくい
いま困っている人がいて、
支えが必要とき、
その大小は関係ありません
だって、困っていることには変わり
ないのだから
赤い羽根はこれからも、小さなこと
に心を配って活動していきます。



行政組長様を通じてお願いにあがりますので、ご協力をお願い申し上げます。

尚、自治会等に入られていないご家庭へは直接お願いの文書をお送りいたしますので、ご協力をお願い申し上げます。

■ 共同募金の流れ



赤い羽根共同募金

運動期間 10月1日～12月31日

一人ひとりの優しい気持ちで、きよらの郷を支えています。

本年も10月から赤い羽根共同募金運動が全国一斉に展開されます。昨年度に町民の皆様から寄せられた共同募金は下記の事業に活用させていただいております。

皆様から寄せられた温かい善意を地域の支え合い、安全安心につながるような事業に配分させていただき、募金がどのように使われているか町民の皆様にごわかり易く説明し共同募金の透明化を図っていきます。

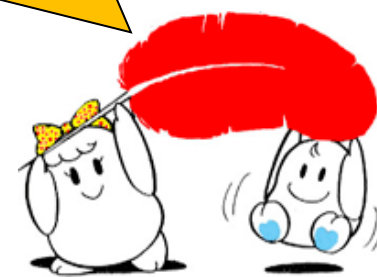
平成30年度も昨年同様の実績を目指し募金活動をすすめて参りますので町民の皆様のご理解・ご協力をお願い申し上げます。

～平成30年度 南小国町 共同募金の使いみち～

※平成29年度にお預かりした共同募金等を活用して実施しております。

項目	単位(千円)	事業詳細
高齢者のため	225	高齢者ミニデイサービス事業 老人クラブ活動への支援
広報活動のため	119	社協だより“りんどう”発行、町内の福祉活動の情報発信
子育て支援のため	220	子育て支援 子育て広場★ら★ら 子育てサポート事業(一時保育) 子どもデイサービス
福祉育成・援助活動費	600	支え合い助け合い活動の支援 心配ごと相談、地域福祉活動の促進のため
福祉教育のため	260	小中学校福祉教育推進校事業 福祉教育の推進
合計	1,424	

『きよらのふくし』
“みんなで参加”！！
みんなを支える町づくり！！
本年も
『赤い羽根共同募金』
ご協力お願い申し上げます。



子育て広場★ら★ら 人形劇



中高生ボランティア 福祉教育



高齢者ミニデイサービス 扇地区



ふれあいサロン活動 脇戸地区

共同募金運動・募金に関するご質問は
熊本県共同募金会 南小国町分会(社会福祉協議会内) 42-1501まで